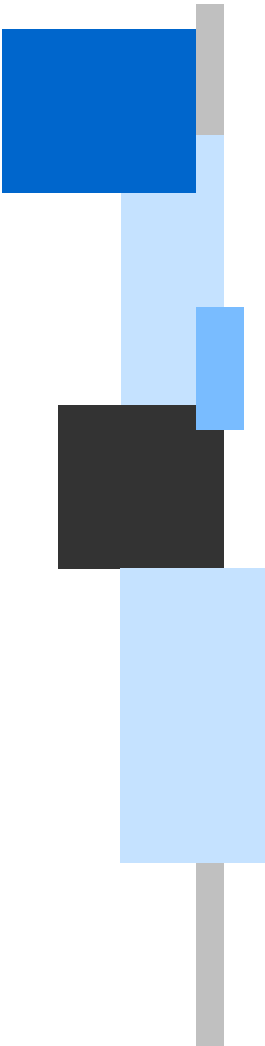




IDCF クラウド オブジェクトストレージから クラウドストレージへの データ移行手順

サービスマニュアル



Ver.2.00

2019年1月23日

株式会社 IDC フロンティア

目次

1. 本手順について	3
2. クラウドストレージの利用開始	4
3. gsutil のインストール	5
4. オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータを移行	10
5. 移行後の確認	12
6. オブジェクトストレージ上のバケットを削除	13
7. お問い合わせ	14

1. 本手順について

この文書では、オブジェクトストレージサービスをご利用のお客様を対象に、クラウドストレージサービスの利用開始からデータ移行、および移行完了後にオブジェクトストレージに残ったバケット削除までの手順となります。

オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータ移行する手順は以下のとおりです。

- ・クラウドストレージの利用開始
- ・gsutil のインストール
- ・オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータの移行
- ・移行後の確認
- ・オブジェクトストレージのバケットの削除

ご注意事項

- * 本データ移行作業に伴う、費用につきましては、お客様ご負担となります。予めご了承ください。
 - データ移行でご利用のコンピューティング環境
 - データ移行時に発生するネットワーク料金 等
- * また、データ移行後も、オブジェクトストレージにデータが残っている場合には、課金対象になりますのでご注意ください。

2. クラウドストレージの利用開始

以下の手順を参照して、クラウドストレージを利用開始し、移行先のバケットを作成してください。

https://www.idcf.jp/help/gcp/storage/guide/storage_manual.html

3. gsutil のインストール

gsutil では Python 2.7.x 以降のバージョンをサポートしています。Python 3.x では動作しません。例として、「CentOS7.5」での Google Cloud SDK の導入方法は以下となります。

Google Cloud SDK を次のコマンドで取得し、インストールを実行

```
$ curl https://sdk.cloud.google.com | bash
```

インストール実行時に質問を求められるため、以下を参考に Y を入力し実行
インストールディレクトリの選択はそのまま ENTER を入力

```
Installation directory (this will create a google-cloud-sdk subdirectory) (/home/[ユーザー]):
```

「Y」を選択

```
Do you want to help improve the Google Cloud SDK (Y/n)? Y
```

「Y」を選択

```
Do you want to continue (Y/n)? Y
```

そのまま ENTER を入力

```
Enter a path to an rc file to update, or leave blank to use  
[/home/[ユーザー]/.bashrc]:  
Backing up [/home/[ユーザー]/.bashrc] to [/home/[ユーザー]/.bashrc.backup].  
[/home/[ユーザー]/.bashrc] has been updated.
```

以下の表示が出力されたら、Google Cloud SDK のインストールは完了

```
==> Start a new shell for the changes to take effect.
```

```
For more information on how to get started, please visit:  
https://cloud.google.com/sdk/docs/quickstarts
```

シェルを再起動

```
$ exec -l $SHELL
```

実行環境にインストールした Google Cloud SDK の初期化を実施、連携した Google アカウントでアクセスを許可

初期化を開始

```
$ gcloud init
```

手順 1 で連携した Google アカウントでログインする必要があるため、以下は「Y」を入力

```
$ You must log in to continue. Would you like to log in (Y/n)? Y
```

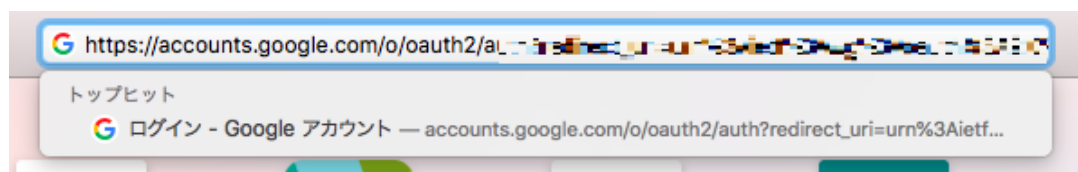
以下が表示されたら URL をブラウザのアドレス欄に入力

Go to the following link in your browser:

https://accounts.google.com/o/oauth2/auth?redirect_uri=urn%3Aietf%3Awg%3A...

Enter verification code:

```
[root@browser-test02 ~]# gcloud init
Welcome! This command will take you through the configuration of gcloud.
Your current configuration has been set to: [default]
You can skip diagnostics next time by using the following flag:
  gcloud init --skip-diagnostics
Network diagnostic detects and fixes local network connection issues.
Checking network connection...done.
Reachability Check passed.
Network diagnostic passed (1/1 checks passed).
You must log in to continue. Would you like to log in (Y/n)? Y
Go to the following link in your browser:
  https://accounts.google.com/o/oauth2/auth?redirect_uri=urn%3Aietf%3Awg%3A...
Enter verification code: █
```



Google アカウントの選択

IDCF のアカウントと連携している Google アカウントを使用してください。



アクセスの許可がリクエストされたら「許可」を選択



コードが表示されたら、コマンドラインに戻り「Enter verification code:」にペーストし、初期化を継続

```
Network diagnostic passed (1/1 checks passed).
You must log in to continue. Would you like to log in (Y/n)? Y
Go to the following link in your browser:
https://accounts.google.com/...
Enter verification code:
```


プロジェクト ID の選択

IDCF クラウドコンソールの連携アカウントに表示されているプロジェクト ID を使用してください。

該当プロジェクトの数字を入力

例 :

```
You are logged in as: [XXX@idcf.jp].
Pick cloud project to use:
[1] cloudstorage-test-dev
[2] cloudstorage-test-prod
[3] cloudstorage-test-stg
[7] Create a new project
Please enter numeric choice or text value (must exactly match list item):
```

Google Compute Engine は使用しないため、Zone の選択は「n」を入力

```
Do you want to configure a default Compute Region and Zone? (Y/n)? n
```

以下が表示されたら、完了

```
Your Google Cloud SDK is configured and ready to use!
```

以上で初期化は完了

正しく初期化されたことを確認

```
$ gcloud config list
```

例 :

```
$ gcloud config list
[core]
account = XXX@gcp.idcfcloud.net ←アカウントが連携されているものか確認
disable_usage_reporting = False
project = cloudstorage-test-stg ←プロジェクトが連携されているものか確認
```

```
Your active configuration is: [default]
```

他の OS を使用している場合、以下を参照してインストールしてください。

(https://cloud.google.com/storage/docs/gsutil_install)

4. オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータを移行

設定ファイル (/home/user/.boto) の aws_access_key_id、aws_secret_access_key、s3_host にオブジェクトストレージの情報を設定

```
$ vi /home/user/.boto

# To add HMAC aws credentials for "s3://" URIs, edit and uncomment the
# following two lines:
#
# 以下の行のコメントを外し、オブジェクトストレージの API_Key、Secret_Key を設定
aws_access_key_id = xxxxxxxxxxxx
aws_secret_access_key = xxxxxxxxxxxx
# The ability to specify an alternate storage host and port
# is primarily for cloud storage service developers.
# Setting a non-default gs_host only works if prefer_api=xml.
# 以下の行のコメントを外し、IDCF のエンドポイント設定（エンドポイントはコントロールパネル
にて確認）
s3_host = ds.jp-xxx.xxx.com
```

※プライベートコネクタを既にご利用のお客様はエンドポイントに【ds.jp-xxx.xxx.local】を指定してください。ただしクラウドストレージは https での通信となり、本手順では https 通信を用いたデータ移行となります。

移行用コマンドを実行して移行したいオブジェクトストレージのバケットがコマンドの結果に含まれることを確認

```
$ gsutil ls s3://
```

※s3 を指定することでオブジェクトストレージにアクセスします

例：

```
$ gsutil ls s3://
s3://test2016/
s3://test2017/
s3://test2018/
```

オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータを移行

下記コマンドを実行すると移行元のオブジェクトストレージのバケットから移行先のクラウドストレージのバケットへ移行します。

一度、移行した後に再度実行した場合、既に存在するファイルは上書きされません。

```
$ gsutil rsync -r ¥  
s3://{移行元オブジェクトストレージのバケット}/ ¥  
gs://{移行先クラウドストレージのバケット}/
```

※-r オプションはバケット内全てのオブジェクトを移行する
例:

```
$ gsutil rsync -r s3://test2018/ gs://my_test_bucket/  
Building synchronization state...  
Starting synchronization...  
Copying s3://test2018/hoge.txt [Content-Type=text/plain]...  
¥ [1/1 files][ 17.0 B/ 17.0 B] 100% Done  
Operation completed over 1 objects/17.0 B.
```

5. 移行後の確認

移行した全てのオブジェクトがクラウドストレージ上にあるか確認してください。

※バケット内のオブジェクトの数が多い場合、結果取得に時間がかかる場合があります。

トップレベルのバケットの内容を一覧表示します。

```
$ gsutil ls gs://{移行先のクラウドストレージのバケット}/
```

再帰的にバケット一覧を取得する場合は以下を実施

```
$ gsutil ls -r gs://{移行先のクラウドストレージのバケット}/
```

再度転送を実施し、以下のような出力になったら、差分なしと判断

```
$ gsutil rsync -r ¥  
s3://{移行元のオブジェクトストレージのバケット}/ ¥  
gs://{移行先のクラウドストレージのバケット}/
```

例:

```
$ gsutil rsync -r s3://tes2018/ gs://my_test_bucket/  
Building synchronization state...  
Starting synchronization...
```

移行元と移行先のバケットの容量を比較する

```
$ gsutil du -s s3://{移行元のオブジェクトストレージのバケット}  
$ gsutil du -s gs://{移行先のクラウドストレージのバケット}
```

例:

```
$ gsutil du -s s3://test2018/  
17          s3://test2018  
$ gsutil du -s gs://my_test_bucket/  
17          gs://my_test_bucket
```

6. オブジェクトストレージ上のバケットを削除

確認後、問題がなければ移行元のオブジェクトストレージ のバケットの削除を実施。

```
$ gsutil rm -r s3://{バケット名}/
```

オブジェクトストレージからクラウドストレージへデータ移行する手順は、以上となります。

7. お問い合わせ

サービスに関するお問い合わせは、IDCF クラウドコンソール内のお問い合わせチケットシステムを利用したオンラインサポートをご利用ください。また、プレミアムサポート(有償オプション)をお申し込みいただければ、お電話でのお問い合わせも可能となります。

項目	内容
オンラインサポート (標準) [チケットシステム]	サービス問合せ 平日 09:00~17:00
	故障問合せ 24 時間 365 日
プレミアムサポート (有償) (※電話)	サービス・故障問合せ 平日 09:00~17:00

※プレミアムサポートは電話サポートが可能となるサービスです。

改版履歴

改訂日	改訂章	改訂内容
2018年12月12日	全章	新規作成
2019年1月23日	1章	「ご注意事項」を追記

IDCF クラウド
オブジェクトストレージから
クラウドストレージへの
データ移行手順

Ver.2.00

発行日：2019年 1月 23日

株式会社 IDC フロンティア
〒102-8124 東京都千代田区紀尾井町 1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町紀尾井タワー
<https://www.idcf.jp/>

CS-PUB-M0165